



アダプト通信

VOL.8

アダプトとは…
英語で「養子縁組をする」という意味。住民や企業などが主体となって清掃・緑化などの美化活動を中心に公共空間を「わが子のように面倒を見る」手法として制度化されたものです。

NPO 法人ひろしまアダプトは、広島県内の道路・河川等あらゆる土木公共施設を対象としたアダプト活動を支援し、行政機関との連携を図りながら、行政と住民・民間団体の協働による公共施設の適切な保全及び環境保全並びに公共施設の愛護機運の促進等を図るとともに、その活動を通して地域の活性化に寄与することを目的として、提案や活動を行っています

2012年3月31日発行 第8号
発行/NPO法人ひろしまアダプト
広島市中区紙屋町1丁目 1-17
TEL (082)240-0768 FAX (082)248-7565

食環協「地方連絡会議全国大会」を福山市で開催しました

公益社団法人 食品容器環境美化協会



公益社団法人食品容器環境美化協会（食環協）は、会員企業で構成される「地方連絡会議」を全国に設置し、地域に密着した環境美化活動に取り組んでいます。

各地の地方連絡会議メンバーが集まる全国大会を、本年度は先進的な環境美化政策を推進している福山市にて3月13日～14日に開催しました。福山市環境啓発課から市の環境基本計画や、市民・事業者・行政等が「協働」の視点で進める環境教育のユニークな取り組みを説明いただき、また国の登録有形文化財である堂々の砂留視察や、当協会主催の環境美化教育優良校等表彰で本年度、文部科学大臣賞を受賞された福山市立御野小学校を訪問しました。

御野小では、校長はじめ教職員、児童の皆さんの元氣なごあいさつで、あたたかく迎えられる環境美化活動の紹介のあと、児童が運営する環境美化実行委員会の進行で4年生の環境学習会の活動発表「ウイラブみの」、6年生の「生きる」を拝見しました。児童の素晴らしい内容の一生懸命な発表、帰りにいただいた手作り折鶴に、食環協一同おおいに感動、感激を味わう1日となりました。

第12回 環境美化教育優良校等表彰 最優秀校・特別優秀校表彰式
主催：公益社団法人食品容器環境美化協会 後援：文部科学省 広島県教育委員会



御野小学校 文部科学大臣賞受賞



「ウイラブみの」発表

「アダプトフォーラムinくれ」が開催されました。

平成24年2月12日、大和ミュージアムにおきまして「公衛協活動研究セミナーinくれ&アダプトフォーラムinくれ」が開催されました。テーマは、「アドプト活動で瀬戸内海を美しく」。県内各地で展開されているアダプト活動について、活動団体からの実践事例報告を交えながら、意見交換が行われました。講演会の内容を、抜粋して紹介します。

基調講演 「瀬戸内海の環境保全とアドプト活動の意義」

(財)広島県環境保健協会地域活動支援センター 地域支援課 住田典子 課長

環境保健協会は昭和32年、「健康づくり」「快適環境づくり」を県レベルで支援する団体として設立されました。協会自体は環境と健康にかかわる各種事業を行い、上がった収益で公益事業の支援をしています。私のいる地域活動支援センターは、地域のコミュニティで実践される環境づくり・健康づくりのお手伝いをする部署です。全県内の公衛協の活動として平成13～22年度は「アドプトNETひろしま」という名称で、公共スペースの清掃活動を行ってきました。平成23年度からは目標をもっと大きくし、「広島発・瀬戸内海美化大作戦」とい



寄付金をいただきました

平成24年3月16日、国際ソロプチミストウエストひろしま（実業界などで活躍する女性による地域・災害支援や、女児などの生活向上に取り組む国際ボランティア組織）の皆さまから、NPO法人ひろしまアダプトへ、5万円の寄付金贈呈がありました。貴重なご寄付、ありがとうございました。この寄付金は、各地域で活動するアダプト団体への支援などへ、大切に使用させていただきます。



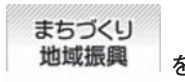
向かって左から、国際ソロプチミストウエストひろしま 会長中村様、当法人副理事長大森、国際ソロプチミストウエストひろしま環境・保健奉仕委員長長月様。貴重なご寄付、ありがとうございました。

広島県からのお知らせ

●アダプト情報サイトについて

平成24年1月から、広島県ホームページの中に「アダプト制度情報サイト」を設けています。閲覧方法は次のとおりです。

広島県ホームページの
トップページの



をクリック

アダプト制度情報サイトのバナー



をクリック

●各アダプト活動認定団体の皆さまへ【書類提出のお願い】

- 各アダプト活動団体の皆さまには、次の書類を各建設事務所（支所）管理（用地）課に提出いただくようお願いしています。まだ提出しておられない団体は、速やかにご提出いただくようお願いいたします。
 - 平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）の活動実施計画書（様式1）
 - 平成23年度（平成23年4月～平成24年3月）の活動実績報告書（様式2）
- 各アダプト活動認定団体の皆さまには、長く活動を継続していただくようお願いしています。しかし、やむを得ない事情により活動を継続できなくなった団体は、速やかに、活動廃止を各建設事務所（支所）管理（用地）課に届け出いただくようお願いいたします。

*奨励金の活動実績報告書をNPO法人ひろしまアダプトに提出している団体は、様式2については提出不要です。

活動事例 発表 1

ロマンあふれる 瀬戸内海三津口湾豊穡の海！

発表者／呉市安浦地区公衆衛生推進協議会 推進委員 山田賢一氏

安浦町三津口湾には水質浄化作用のあるアマモが群生しており、カキの生産量は日本一を誇ります。そんな安浦の海を、私たちは守らなければなりません。海と山はつながっていますから、「野呂川の清掃活動」、広大教授と一緒に自然形態を学ぶ「野呂川自然学校」を開催しています。また、環保協の指導のもと、公衛協が主体となって小学生を対象とした「水辺教室」も開催。教室の後は必ず、川のゴミ拾



いに出かけます。呉市で大河ドラマのロケが行われるにあたり、町内の各種団体に声をかけ海岸線や島を清掃しました。今後は近くの自治体さんに見回りをしてもらい、「ゴミが増えてきた」というときには、また皆で集まって回収することになっています。

活動事例 発表 2

美しい「宝島くらはし」を 次世代に！

発表者／倉橋の海とくらしを守る会 会長 室田弘典氏・浜田加代子氏

この会は平成19年6月、「環境と海の保全を守るため、できることから始めよう」を合言葉に、15名で発足しました。まず取り組んだのが、桂が浜周辺の海浜清掃活動です。今年度は小中学生の生徒や保護者・自衛隊にも協力していただき、大規模な清掃を行いました。多種多様なゴミが1トン近く回収されますが、それぞれ分別して海藻などを堆肥化。地域の「花いっぱい運動」などの肥料として利用し



ます。堆肥化するとゴミ袋や運搬エネルギーが削減できますし、燃焼させないため二酸化炭素排出量の削減になります。ゴミの漂着量や場所は季節や風向きで変化しますので、一つの地域だけではなく、広域で取り組む必要があると思います。

活動事例 発表 3

子どもたちと共に歩み続ける

発表者／ラブリバー認定団体 永田川カエル倶楽部 事務局兼会長 池田朝雄氏

永田川カエル倶楽部の主体は子どもたち。地域の宝である子どもたちを川で遊ばせるため、「ゆっくりあせらず環境保全活動」をテーマに活動を行っています。活動内容としては、毎月の川の清掃と水質調査がメイン。夏休みに行う水生生物調査は、子どもたちが非常に喜びます。ウナギの遡上調査やホタル個体数調査に加え、安全確保のために年3回ほど活動場所の草を刈ります。



会費は徴収していませんので、活動資金はすべて奨励金や助成金から調達しています。皆さんも、ぜひいろいろな場所へ応募してみてください。永田川カエル倶楽部からは、毎年20名前後の子どもたちが巣立ちますので、その中から後継者が出てくれればうれしいです。

活動事例 発表 4

有志の会 活動報告

発表者／ラブリバー認定団体 山手1丁目自治会有志の会 代表 大島正氏

呉市内を流れる二河川で、毎週水曜の午前中3時間をめぐりに河川敷の草刈り、年4回の清掃を行っています。以前は人の背丈より高い雑草が茂っていましたが、活動を続けるうちにきれいになりました。草丈が短くなったので幼稚園の子どもたちや高齢者の散歩コースになっています。ただ犬の散歩が増えたため、フンの放置という新たな問題が生まれています。活動の延べ参加人員は減少傾向にあり



ましたが、23年度に女性参加者が増加して若干持ち直しました。女性参加者には、護岸の草取りと草刈り機で刈った後の草集めをお願いしています。参加者の高齢化と若者の参加者がいないことが悩みの種ですが、体力が続く限り続けていきたいと思っています。

情報提供 1

全国的なアダプト活動の動き (川&海)

発表者／公益社団法人食品容器環境美化協会 部長 宮本和幸氏

食品容器環境美化協会は昭和48年の設立以来、ポイ捨て防止や環境美化活動事業を展開しています。現在の主な事業はアダプトプログラム普及推進と環境美化教育の支援です。今日は全国のアダプト活動の状況を説明させていただきます。

全国の自治体で多彩な取り組みがされていますが、プログラム数は昨年末で約500、団体数は2万3000以上、活動登録されている人は100万人を超えています。広島県内のアダプト制度は平成12年に県、18年に呉市、現在では8自治体で導入されています。プログラム参加団体の構成は、全国平均・広島県とも企業の比率が高いですが、広島県を除いた市町の場合、青年・老人会の比率が高いことが特徴となっています。活動場所としては、道路・公園・河川の順で多く、活動内容で最も多いのはゴミ拾いで、除草や花壇の世話、植栽と続き、地域が必要とする広範な美化活動が組み入れられています。アダプト活動の導入効果を行政担当者や活動団体、両方に聞いてみました。回答結果はほぼ同じで、「活動することでごみの減少やポイ捨て防止の啓発、まちの美化や地域への関心・愛着の高ま



りなど幅広い効果がある」という内容でした。内閣府行政刷新会議では、公民連携の一つの施策としてアダプトプログラムに注目しています。広島県のマイロードやラブリバー制度の実例も紹介されているので、追い風になると思います。

情報提供 2

アダプト活動拡充あれこれ

発表者／NPO法人ひろしまアダプト 理事長 丸山孝志氏

活動団体を運営するためには資金が必要です。資金の種類ごとに、特徴と注意点を見ていきましょう。

【参加費・会費】 気軽に参加できることも重要ですが、会費を払えば「自分はゲストではなく主催者だ」という意識がわきます。どんなに簡単でも、会計報告は必要です。

【寄付】 寄付者から寄せられる最も多い不満は「寄付をしたのに受領書や礼状が届かない」ということ。寄付金の額ではなく、「活動を理解して支援してくれる気持ち」に対する感謝を忘れてはいけません。どんなに少額でも、受領書と礼状は出しましょう。たとえ寄付であっても受領報告と会計報告は必要です。ホームページで公表する場合、寄付者の個人情報取り扱いに配慮が必要です。あらかじめ「個人情報をご取り扱い」を寄付者に確認しておきましょう。

【助成金・補助金】 申請をして審査を受けるのが一般的。申請には条件がありますし、お金の使い道を指定されます。事業報告や決算報告も求められますから、事務処理能力が必要になります。応募条件や締め切りに注意し、報告書の準備もし



ておきましょう。報告書は書式を埋めるだけでなく、事業成果のアピールと感謝の気持ちを盛り込みます。「出してあげて良かった」と思われるような報告書を出したいものです。

行政や中間支援団体と連携していると、助成金や補助金の情報を入手しやすくなります。資金が潤沢にあれば、お金を払って業者や外部団体に応援を頼むこともできます。メンバーの中に、資金集めが得意な人を確保するのもポイントです。